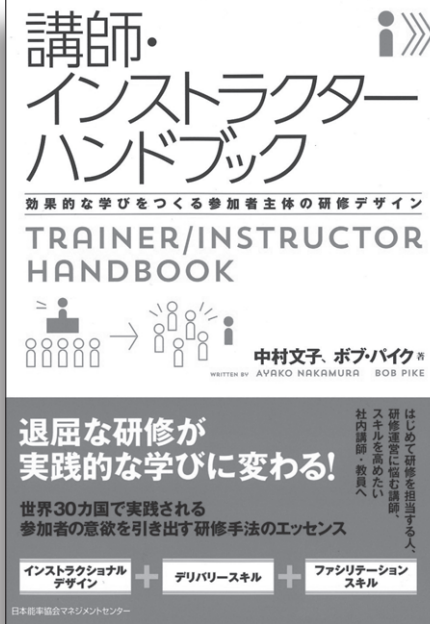


著者に聞く

『講師・インストラクターハンドブック』（日本能率協会マネジメントセンター刊）

著者 **中村文子** 氏 ダイナミックヒューマンキャピタル 代表取締役
ボブ・パイク 氏 ボブ・パイク・グループ創設者



「退屈な講義」から脱却し ビジネスで成果を上げる 「参加者主体」の研修手法を網羅

研修の効果を高めることは、研修担当者や講師にとって必須の課題。その課題解決のために、脳科学や心理学をベースに体系化されたのが「参加者主体の研修手法」である。参加者が主体的に考え、学んだことを記憶にとどめ、さらに現場で実践しようという気持ちにさせる——そんな研修を実現するためのノウハウを1冊にまとめたのが本書だ。著者で、その手法を学ぶプログラムを提供するダイナミックヒューマンキャピタルの中村文子氏に、刊行の目的や研修手法のポイントなどを聞いた。

まったり、といったことが起きているのです。

そのような状況を改善し、研修の効果を高めるために、当社では講師に必要なスキルを学ぶプログラムを提供しています。しかし、まとまった時間が取れない、あるいは遠方にいるために研修に参加することが難しいという方も少なくありません。そんな方々にも「教え方のスキル」を知っていただきたいと考え、本書を上梓しました。

講師に必要な3つのスキル

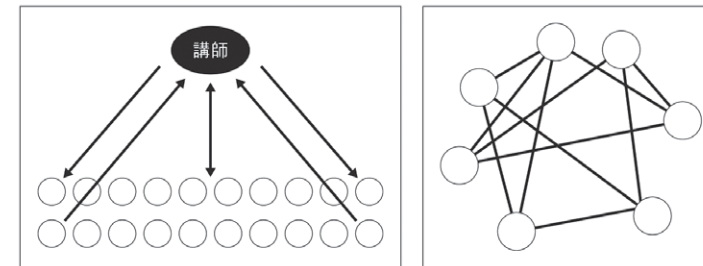
効果の高い研修とは、参加者が研修で学んだことを業務で実践し、ビジネスにプラスの影響をもたらすものです。そのためには、参加者が研

修で学んだことを習得でき、かつ「やってみよう」というモチベーションを持続できることが必要です。参加者が研修に受け身の姿勢で臨んでいる限り、学んだことは身につかせませんし、職場に戻ってもやる気にはなりません。研修の効果を高めるには、参加者に主体的に参加してもらうことが重要です。

こうした参加者主体の研修を行うには、次の3つのスキルが必要です。

- ① **インストラクショナルデザイン**
- ② **デリバリースキル**
- ③ **ファシリテーションスキル**

講師に必要なスキルとして、デリバリー（立ち居振る舞いや分かりやすい説明の仕方など）やファシリテーション（グループワークの進め方など）はよく取り上げられます



講師と参加者の対話のみでなく、参加者同士の対話の機会を設ける

が、それだけでは十分ではありません。研修の効果や効率を追求するには、研修の目的を明確にし、目的達成のために研修の内容をどのような順序で組み立て、どのような手法を使って行うか、時間配分をどうするかなどを事前に決めておくインストラクショナルデザインが重要になります。脳科学や心理学をベースに、どうすれば頭にインプットしやすいか、どうすれば安心して学べる環境を提供できるか、といったことを踏まえて、学習効果の高い研修を設計します。

よくある研修の“落とし穴”

ここで、研修にありがちな“落とし穴”を2つ紹介します。1つは、講義を一通り行った後にワークショップを行うパターンです。これでは、参加者は講義の間は受け身の姿勢を強いられることになります。参加者の主体性を高めるには、例えば講義を始める前に間違い探しなどのクイズを行い、参加者に考えてもらうようにします。次に、ペアやグループで答え合わせをし、その後で講師が解説をします。こうすると、同じ説明をするにしても、参加者の姿勢は受動的から能動的に変わります。

インストラクショナルデザインの法則の1つに「8分に1回巻き込む」というものがあります。人の脳は、受け身の状態が10分以上続くと興味を失い始めます。そのため、8分に1回は立ち止まり、参加者に考える機会を与えるようにするのです。講義の中にもこのようなワークを小刻みに入れて設計することによって、参加者が主体的に学べる研修にすることができます。

もう1つは、講師が個々の参加者に質問を投げかけるスタイルです。研修効果をより高めるには、講師と参加者の間でのやりとりだけでなく、参加者同士の対話も重要です（図）。人間の脳は、見聞きした情報がそのままの形で定着することはありません。その情報を自分なりに咀嚼し、既に持っている自分の知識や意図などと結びつけることによって、「これは使える」「やってみよう」というインサイト（洞察）に変換されます。インサイトが自分の中に生まれることで、初めてそれを活用できるようになります。

インサイトは、人から話を聞いているだけでは生まれません。自分で考え、誰かにアウトプットしたり、あるいは他の人と話し合ったりする体験によって、考えが深まったり、学びが豊かになり、インサイトが生



中村文子氏

まれやすくなります。

研修でスキルの効果を実感

本書は、このような参加者主体の研修に必要な手法を網羅し、タイムテーブルの例やチェックリストなども載せて、実際に研修をする際に活用できるようにつくられています。

もし、本書に書かれた手法を実際に体験されたい場合は、私たちが提供する「トレーナー養成ワークショップ」（2日間）に参加いただければ、効果を実感できます。他にも、実践練習ができるワークショップやコンパクトな1日研修など、ニーズに合わせてさまざまなプログラムを用意しています。「参加者主体の研修手法」を活用し、現場での実践を可能にする研修を実現しましょう。

●お問い合わせ先
ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社
〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-7
TOC みなとみらい10階
TEL/FAX: 045-228-5304
E-mail: info@d-hc.com
URL: http://www.d-hc.com